

2L04 人と設備の可視化による生産性向上

プレゼン：3月10日 A会場 15:00～ 人と設備を支えるものづくり現場

対象業務の現状と取組み

設備の稼働実績と人の作業実績を可視化して、人と設備の組み合わせを最適化する

【現状業務の課題】

- 対象：多品種少量生産の加工工場
- ①自動工程と人の工程の組合せ方で生産性が変動する。
(組合せの巧拙は属人的な暗黙知)
 - ②作業負荷が予測できず、適切な生産計画が立てられない。

【取組み】

- ①加工機の稼働実績、人の作業実績・動線をIoTで収集。
- ②実績データ分析から、
 - ・実質的な工程負荷の予測
 - ・効率的な作業順序の指示を可能にする。

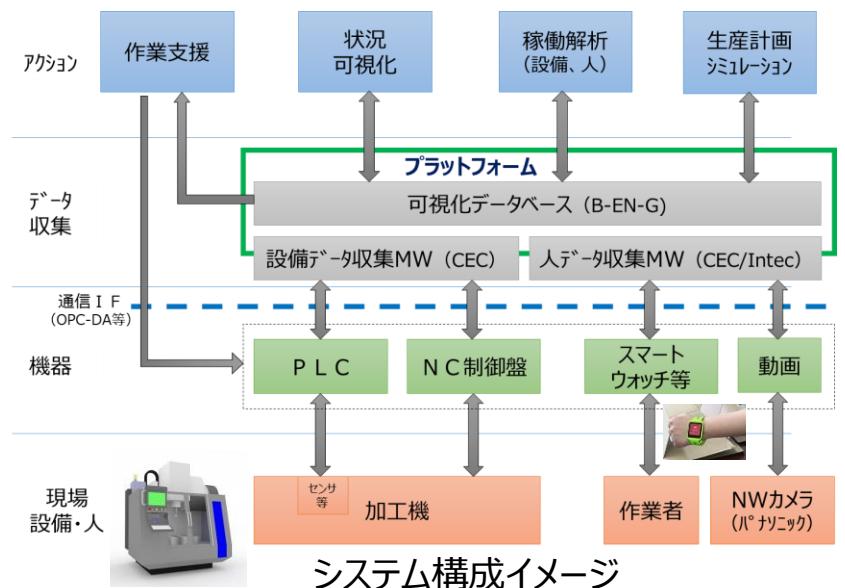
実証実験・成果

【実証実験】

- ・2社の加工工場にて実証システムを構築、加工機と作業者の実績情報を収集した。
- ・プラットフォームを用いて、状況可視化と稼働解析を実施した。

【成果】

- ・設備と人の組合せについて、今回の仕組みで可視化・解析できることを確認した。
- ・負荷予測・作業指示は今後の課題として取組む。



ファシリテータ

池田英生 (神戸製鋼所)
市本秀則 (マツダ)

エディタ

小林 剛 (B-ENG)
永井昭彦 (オークマ)
松井裕晃 (CEC)
横田忠男 (パナソニック)

協力

松本俊子 (日立ソリューションズ) 吉岡 勝 (YKK)

メンバ

柿本康一 (三菱電機)
蟹谷 清 (不二越)
後藤巨充 (CKD)
重田正俊 (日立産業制御ソリューションズ)
高橋淳一郎 (ウйлテック)
遠塚 弘 (イマック)
萩原 徹 (いすゞ自動車)
本田栄司 (インテック)

